

枚方市立川越小学校  「子どもが主役」の川越小 【子どもと共に育ち合う学校像】 「みんなが安心 みんなで創る 一人一人が輝く ごきげんに生きられる学校」	運 動 会 特 別 号	枚方市立川越小学校通信 令和7年9月10日 校長 吉川 茂樹 TEL 050-7102-9120
--	--	---

運動会についてのお知らせ(その2)

～誰一人取り残さない、誰もが安心して輝ける運動会をめざして～

いつも本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本校ではこれまで、運動会において5・6年生は組み立て体操（人が組み合い、高さのある表現運動）を行ってきましたが、今年度より実施しないことといたしました。この決定は、何よりもまず**子どもたち一人ひとりの安全と安心を守るため**です。

① 子どもの命と健康を守るために

全国的にみても、既に組み立て体操を取りやめている自治体・学校は多くあり、枚方市内においても実施しない学校が増えてきました。子どもたちの健やかな成長を支える学校として、**命や健康に不必要なリスクを負わせる活動は避けるべき**だと判断いたしました。

② 教育課程上の位置づけと法的根拠

また、組み立て体操は文部科学省が定める学習指導要領に記載されておらず、教育課程上「必ず行うべき活動」ではありません。むしろ各地の教育委員会が**「体育の授業内容としては不適切。学習指導要領に示された内容を行うこと。」**と明言しています。つまり、制度上も実施する合理的な根拠はなく、行わなくてもよい活動でケガが多発しているのが現状です。

また限られた体育の授業時数（5・6年生の場合、年間で90時間）の中、運動会練習期間の1カ月だけで2カ月分以上の授業時数を行っているなどの課題も指摘されています。

③ 子どもの心の安心とインクルーシブ教育

さらに大切なのは、**子どもたちの心の安心**です。組み立て体操は「全員で完成させる」ことが重視されるため、苦手な子や体格に差のある子、身体的な特性のある子、マイノリティ（少数派）な状況にある子に強いプレッシャー、同調圧力を与えがちでした。その結果、不安や孤立感を抱いたり、体格によっては何度も同じ役割になったりと、練習を理由に登校しぶり、運動会当日を欠席する児童が枚方市内でも散見されています。

（裏面に続く）

また教育に対する価値観も今、大きく動いており、これからの教育は、国際的にも「誰一人取り残さないインクルーシブ教育」が求められています。子どもの権利条約やSDGsの理念にもあるように、『すべての子ども』が安心して学び、自分らしく表現できることが大切です。本校も、『すべての子ども』が安心して参加できる運動会を実現することをめざしています。

今年度からは、組み立て体操（人が組み合い、高さのある表現運動）に代わり、安全で多様性を尊重した表現活動を取り入れてまいります。そこでは一人ひとりの持ち味が生かされ、協力や挑戦の楽しさ、達成感を安心して味わえるよう工夫します。

子どもたちの安全と尊厳を守り、【誰一人取り残さない学校づくり】の一環としての決定です。どうかご理解とご協力をお願いいたします。

～運動会の紅白対抗について～

今年の運動会では、紅白に分かれての得点競争は行わないことにしました。

そのねらいは、「子どもたち一人ひとりが、自分で立てためあてに向かって、どれだけ頑張れたかを振り返ること」を大切にするためです。

小学生の発達段階では、まだ「自分の行動や考えを客観的に振り返る力（メタ認知）」が育ち始めたところです。この時期に「勝った・負けた」という強い外的評価が出ると、「嬉しい・悔しい」といった感情が強く出るため、子どもたちはどうしても勝敗だけに意識を奪われてしまいます。

大切にしたいのは、「自分のめあてに対して、どれだけ力を尽くせたか」を子ども自身が考え、振り返ることです。閉会時、勝敗に意識を奪われることなくその思考の機会を守るために、あえて紅白対抗をなくすことにしました。

本校がめざすのは、「成長と学びに目を向ける運動会」です。自分で決めた目標に向かって努力すること、その過程で工夫したことや仲間と支え合ったことを振り返ること。こうした営みは、将来につながる自己調整力や主体性を育てる土台にもなります。

もちろん、運動会の楽しさや盛り上がりはそのままに、友達と力を合わせる喜びや、自分の成長を実感できる瞬間を大切にしていきます。どうぞ当日の子どもたちの表情にご注目ください。

学校ブログ⇒
絶賛更新中

